

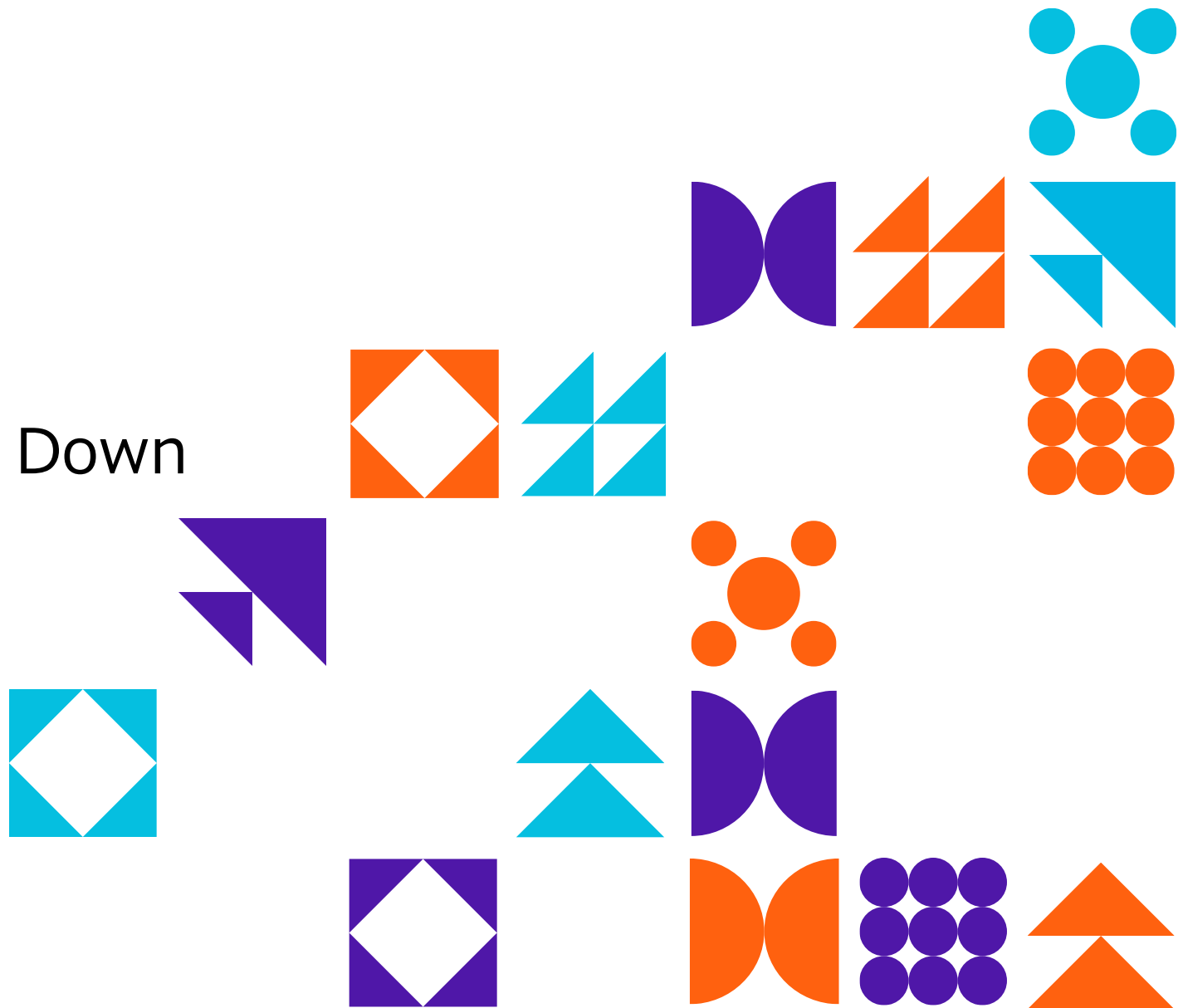
Requirement—SPEC FLOW Down 記載要領

2023FY

9月定例⇒10月定例

AI4PM グループ

文責；栗野 哲兵



はじめに

この図書は、業務を自動化するにあたってのRequirement実現方案を検討するフレームワーク並びに、その使用方法をまとめたものです。

異文化のメンバーによる討議において、記載要領を守ることによって以下を実現できます。

- ✓ Requirementを確認すべき区分を示し、会話に基軸を与える。
- ✓ Requirementの事象分解法を示し、対象の理解と情報の整理を促進する。
- ✓ 明確にした対象に対し「何を使ってどのように対処するか」並びに「その為にどのようなものが見えるか」について分類法を示し、より具体的に調査や検討を推進する。

1. 管理Noルール
2. Requirementカテゴリ
 - (1) 大区分 (L1) の区分について
 - (2) L2・3レベルについて
 - (3) 事項、補足・備考について
3. 事象分解カテゴリ
 - (1) System、SubSystem、Entityについて
 - (2) 備考について
 - (3) フローダウンRequirementについて
4. 対応Function (SolutionSPEC) カテゴリ
 - (1) Equipment (SW/WH/HM/媒体) 機能、備考について
 - (2) 人の機能 (運用・役務作業)、備考について
 - (3) ワイガヤありについて

1. 管理Noルール

- 管理Noは、5桁のコードで、以下のルールにて各レベルの区分ごとの附番を行う。
- なお、附番の桁数が足りなくなる場合は、上位カテゴリの分類が十分でないという目安なので、上位のカテゴリを再考するとよい。
- 管理Noは、Requirementに対して発行するもので、さらに分解した要素である事象分解や対応Functionについては発番しない。

< 5桁附番のルール >

[L1区分：1桁][L2区分：1桁][L3区分：1桁][L3内の事項シリアル番号：2桁]

例) L1：「2. 拘束条件」、L2：「ISSUE」、L3：「情報活用を阻むもの」における
事項が「価値観」「風評」の場合

価値観 ⇒ 22101

風評 ⇒ 22102

管理No▼	Requirement				事項▼	補足・備考▼
	L▼	L▼	L▼			
22000				ISSUE		
22100				情報活用を阻むもの		
22101				価値観		会議以外の会話やチャット、メールなどの情報収集における抵抗。プライベートな接続での個別チャットやメールが横行する可能性により、必要な情報が収集できない、または不足する。 (ネガティブな情報は、文字化しない)
22102				風評		AIによって個人情報が勝手に利用されるなどの倫理で不安による行動

2. Requirementカテゴリ

(1) 大区分（L1）の区分について

- 当活動はプロジェクトマネジメントにAIを適用するものであるため、大区分は次にあげる6つとする。
「1. 解消・実現したい事象（目的・目標・前提条件、背景、要点、課題、事業要求事項・描くToBe像）」
「2. 拘束条件（PESTEL；政治/キャッシュフロー/社会情勢・風土/技術/実行環境/法・規格によるもの）」
「3. システムSPEC要求」
「4 -1, 利用可能技術（センシング技術・製品）」
「4 -2, 利用可能技術（収集技術・製品）」
「4 -3, 利用可能技術（分析技術・製品）」

(2) L2・3レベルについて

- L2は、上記大区分の括弧内に記載されている事項から、関連する事項を発想してリストアップする。
- L3は、同様にL2を構成する事項をリストアップする。

(3) 事項、補足・備考について

- L3を構成する様々な事項を、記載する。
- 事項はキーワードを記載し、補足・備考にてキーワードの内容を具体的に示す事象などを記載する。
- この時、5W1Hを明確にして、何が発生するのかわかるように記載すると、次の事象分解が行いやすい。
- 1つの事項を構成する補足はN個記載があってもよい。この時は、親となる事項のセルをマージして、明確に子要素となる補足記載が判る様にする。

22102					倫理的不安による行動が発生する AIによって 個人情報 勝手に利用される
22103				風評	倫理的不安による行動が発生する AI運用業者が 個人情報を 流出させる ※賠償責任上限や立証の困難さ、結局流出情報は消せない事から、発生時対応が実質できない

3. 事象分解カテゴリ

Requiremetの補足・備考欄に記載した内容をもとに、どのような原理でそれが発生するかを明確にしていく。

- (1) System、SubSystem、Entityについて
 - Systemには、「プロジェクトマネジメント」と、それを取り巻く「プロジェクトマネジメント実行環境・土壌」に分類される
 - SubSystemは、プロジェクトマネジメントに影響を与える、右表の16項目の分類を行う。
 - Entityは、SubSystemを構成する管理機能（ツールと技法）を記載する。
なお、各事項ともに、上位概念であるRequirementに対し、子要素として存在し、各上位概念に対し、複数個存在しうる。
 - また、異なる上位概念に対し、下位で同じ要素が出た場合は、同じ事項を記載するか、記載を参照することを明記する。

プロジェクトマネジメント	品質
	コスト
	スケジュール
	スコープ
	調達
	資源
	リスク
	ステークホルダ
	コミュニケーション
プロジェクトマネジメント環境・土壌	統合
	政治
	経済
	社会情勢・風土
	技術・知識
	実行環境
	法・規格

- (2) 備考について
 - Entityで明示した管理機能で、どのような事が起きるか、記載する。
 - この時、できるだけ5W1Hを明確にした記載とした方が、次の対応Functionの記載が容易になる。

- (3) フローダウンRequirementについて
まれにSystem、SubSystem、Entityの分解をすると、Requirementに相当する事項が浮かび上がってくる場合がある。この時は、適切なRequirementカテゴリに記載を行い、そのRequirementをリプライする番号を記載する。

事象分解				
System	Sub system	Entity	備考	フローダウンRequirement
プロジェクトマネジメント	コミュニケーション	課題管理表	問題と思いつつも課題が登録されない	ReqNo221 01、221 02、221 03に依拠
	ステークホルダ	俗人化	俗人化しがちな組織風土	
プロジェクトマネジメント環境・土壌	社会情勢・風土	人	声の大きい”人”という暴走部品	
	技術・知識	レッスン&ラーニング	膨大な情報故、探して使われない	

4. 対応Function (SolutionSPEC) カテゴリ

事象を分析したのち、その事象を解消するための対応処置法について、人が行うべきものと、ソフトやハードで処置すべきものについて記載する。

(1) Equipment (SW/HW/HM/媒体) 機能、備考について

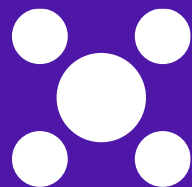
- 処置を実現する機能についてSW、HWといったもので、自動処理するものについて記載する。
- 機能には端的に実現機能を記載し、備考に、処理の詳細を記載する。

(2) 人の機能 (運用・役務作業)、備考について

- Equipmentが正しく機能を発揮するために必要となる補助作業や、そもそもEquipmentではなく人が処理するものについて記載する。
- 機能には端的に実現機能を記載し、備考に、処理の詳細を記載する。

対応Function (SolutionSPEC)				
Equipment (SW/HW/HM/媒体) 機能	備考	人の機能 (運用・役務作業)	備考	ワイガヤあり
俗人性のチェック	の偏りを抑止(AIによる含意分析によるRBSカテゴリの判別と、配置結果のBI表示)	俗人性のチェック	・人による最終的な偏りの是非を判断(AI学習へフィードバック)	ワイガヤ001
意見の恣意性の判定	・リーダーシップを補助する、一方的発言の警告AI。恣意性・単一意見の判定AI(コーパスボリュームのBI(共起ネット・分散など)) ・意見を個人意見に偏らないリーダー意見の判定AI	ブレスト主導能力の向上	主張が強い人材以外の意見を救い上げる質問力などのファシリテーションスキル向上	

本資料および動画の著作権について



本資料および動画の著作権は、PMI日本支部に帰属しています。

本資料および動画の一部または全部を著作権者に無許可で複製、転載、
公衆送信、口述、上映、出版、頒布、貸与、編集するなどして使用
することは著作権法に反することとなります。